

5 地域別構想

5.1 地域別構想の役割

全体構想が全市的な観点から都市づくりの方針を位置付けるのに対し、地域別構想では、それぞれ特性や課題が大きく異なる地域ごとに、まちづくりの方針を明確に示します。

なお、本計画では、各地域における特性や課題を整理するとともに、全体構想で位置付けた都市づくりの方針の内容を踏まえ、地域のまちづくりの方針を示しています。

5.2 地域区分の考え方

地域区分にあたっては、市民の身近な生活行動単位である自治会区や小学校区を基本に、歴史的な沿革や地形、地理的条件等を考慮し、市域を「中央部地域」「西部地域」「東部地域」「北部地域」の4地域に区分します。

表 地域の概況

地域名称	面積		人口		世帯数		対応する校区
	面積 (km ²)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	世帯数 (世帯)	構成比 (%)	
中央部地域	39.6	13.8	92,874	53.4	42,305	58.4	新川・鵜の島・神原・見初・岬・藤山・小羽山・上宇部・琴芝・恩田・常盤
西部地域	22.1	7.7	33,769	19.4	13,394	18.5	西宇部・厚南・黒石・原
東部地域	36.3	12.7	35,332	20.3	12,662	17.5	東岐波・西岐波・川上
北部地域	188.7	65.8	11,797	6.8	4,086	5.6	船木・万倉・吉部・小野・二俣瀬・厚東

出典：国勢調査（2010年）

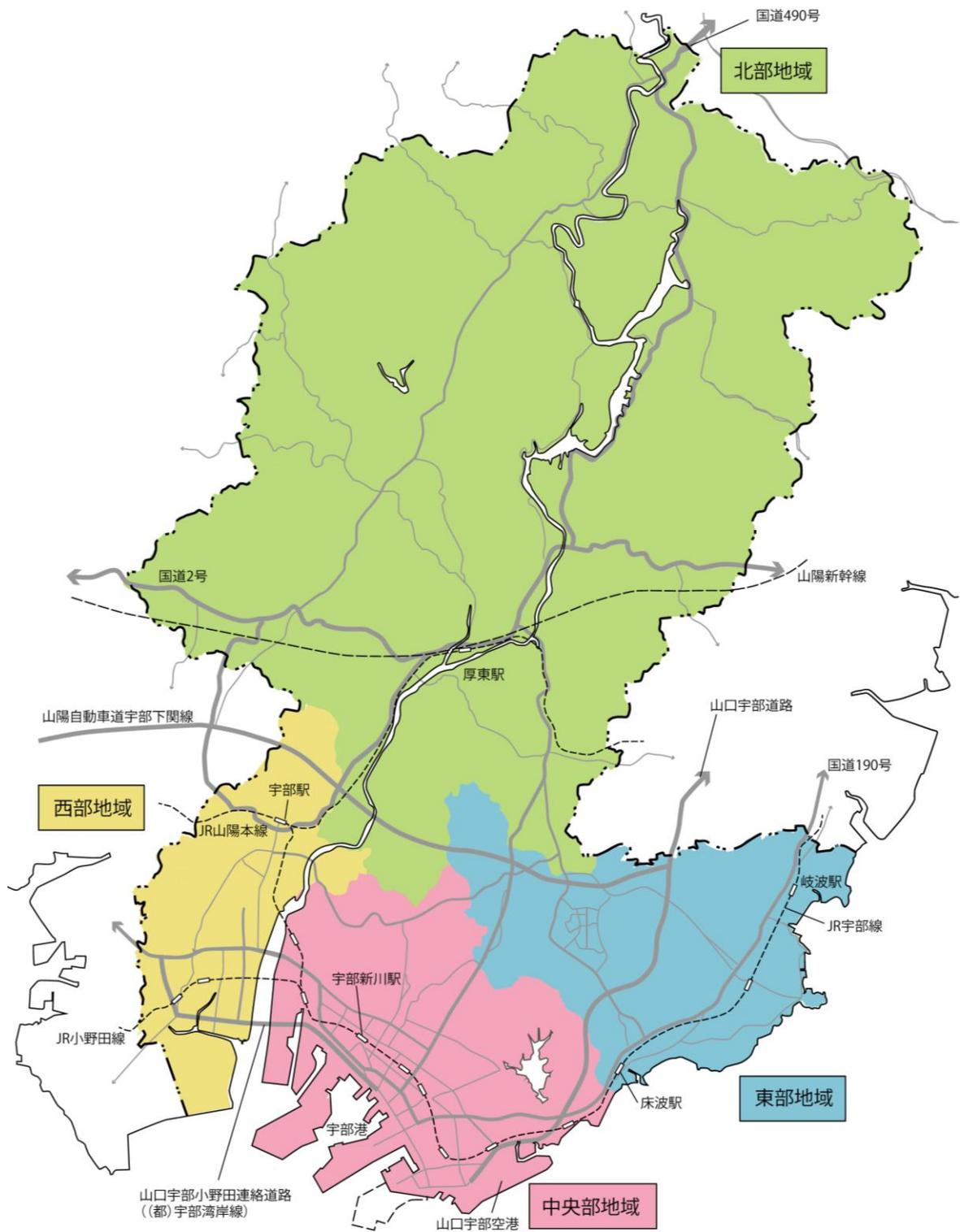
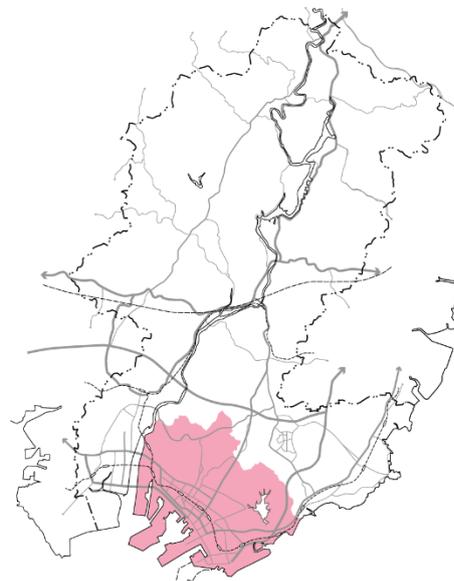


図 地域区分図

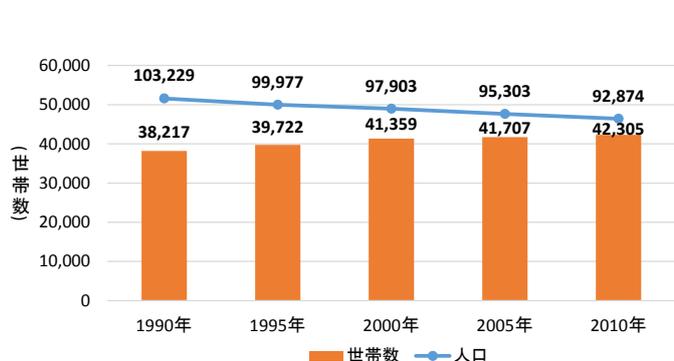
5.3 中央部地域

5.3.1 地域の特性とまちづくりの課題



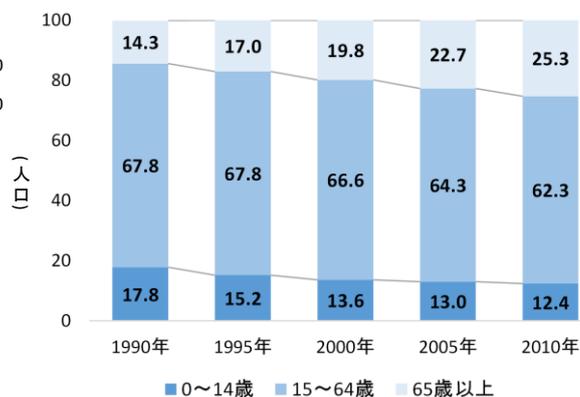
■地域の特性

- ◇人口は、1990年から2010年の20年の間に約10%減少しており、世帯数は約11%増加しています。高齢化率は1990年の約14%から2010年には約25%に増加しています。
- ◇中心市街地やその周辺は、市役所、宇部新川駅、商業施設、医療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設、文化施設等の多くの都市機能が立地する本市の中心となっている地域です。
- ◇岬地区には、大型商業施設、医療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設等が立地しています。
- ◇地域を横断するようにJR宇部線が走っています。
- ◇国道190号、490号沿道等にサービス施設が立地し、臨海部には工業地が広がっています。また、中心市街地を取り囲むように住宅地が広がっています。
- ◇中心市街地やその周辺では、道路、公園等の都市施設の整備が進んでいます。
- ◇中心市街地やときわ公園を中心に野外彫刻が設置されています。
- ◇大学や学術研究機関が立地しています。



出典：国勢調査

図 人口・世帯数の推移(中央部地域)

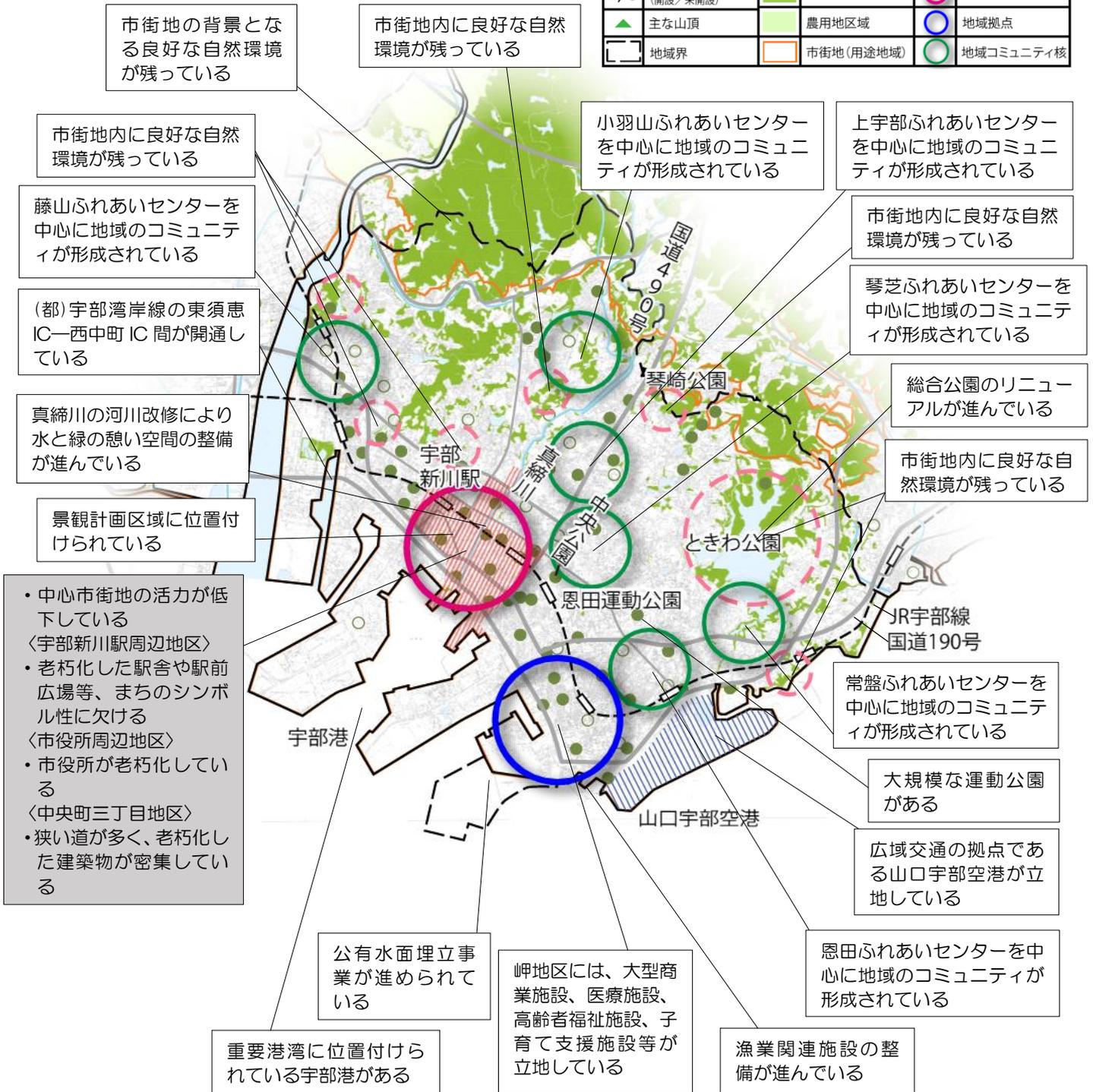


出典：国勢調査

図 年齢階層別人口割合(中央部地域)

■地域の現況・課題図（中央部地域）

凡例		
●/○	公園・緑地 (開設/未開設)	山林
▲	主な山頂	農用地域
□	地域界	市街地(用途地域)
●	都市拠点	地域拠点
○	地域コミュニティ核	



□ : 地域の現況

■ : 地域の課題

【地域内共通の課題】

- ・幹線道路背後地等では狭い道路が多い
- ・歩行者、自転車の通行に支障をきたしているところがある
- ・下水道施設が老朽化している
- ・宇部港周辺等では、過去に高潮被害を受けた地域がある

5.3.2 まちづくりの方針

■特色あるまちづくりに向けて（主なまちづくりの方針）

●「都市空間の再編で活力を高める都市づくり」の方針

方針1 都市・地域拠点への機能集約を進める	都市拠点は、中心市街地にふさわしい都市機能を集約し、にぎわいを創出する。地域拠点（岬）は、都市拠点を補完するとともに、地域特性を活かしながら、生活利便性やコミュニティを維持・向上させるための都市機能を集約する。
方針2 競争力の高い産業を育てる	空港、港湾を活かした産業集積、物流機能の強化を図るとともに、大学や学術研究機関、企業の技術力を活かし、産学連携により新産業を創出する。
方針3 拠点や地域コミュニティ核をつなぐネットワークを強化する	宇部新川駅周辺地区は本市の顔としてシンボリックな空間を創出するとともに、交通結節点機能を強化し、拠点や地域コミュニティ核間の移動を支える公共交通ネットワークの構築を図る。

●「安心できる暮らしをみんなで築く都市づくり」の方針

方針1 コミュニティが豊かな暮らしの場をつくる	中心市街地やその周辺に広がる住宅地では、それぞれの特性を活かした魅力ある住環境の形成を図りつつ、緩やかに都市拠点や地域拠点（岬）およびその周辺、公共交通軸周辺等に居住を誘導し、利便性の高いコミュニティが豊かな住環境を創出する。
方針2 歩いて暮らせるまちをつくる	都市拠点や地域拠点、公共交通軸周辺を中心に、誰もが安心・安全に暮らせるように快適な歩行者・自転車空間を確保する。

●「宇部らしい環境を交流につなげる都市づくり」の方針

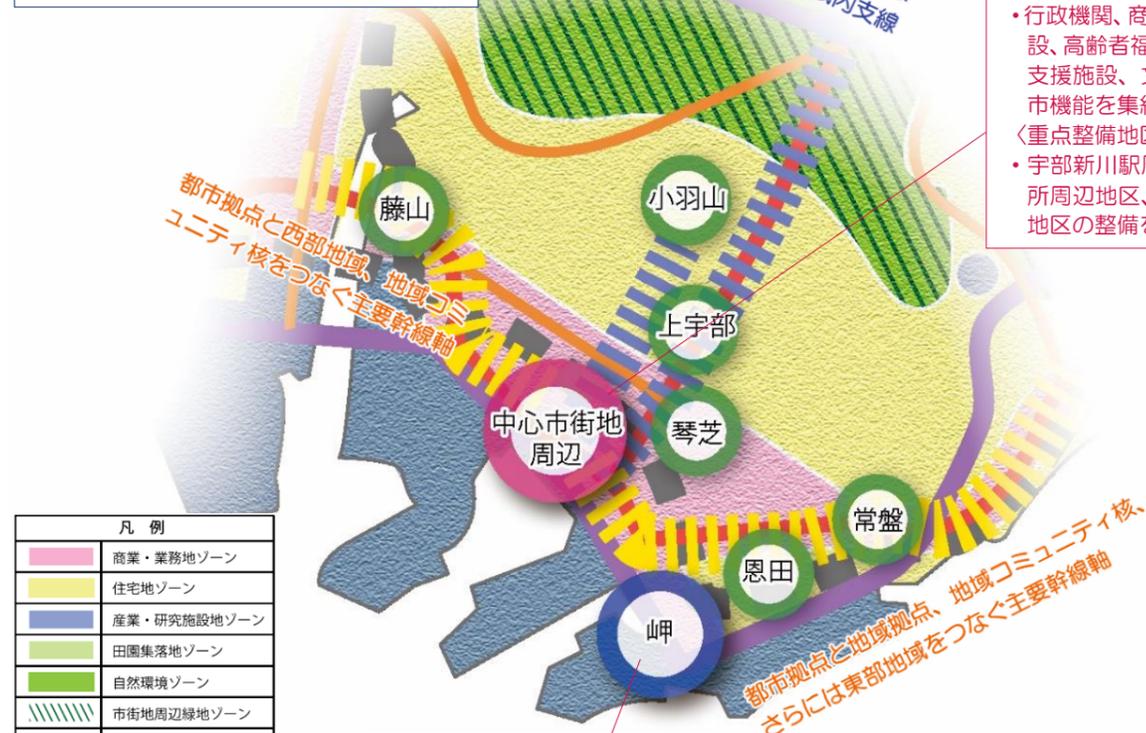
方針1 環境共生都市をめざしたまちづくりを推進する	宇部新川駅周辺地区、市役所周辺地区、中央町三丁目地区において、スマートコミュニティを推進する。
方針2 緑と花と彫刻が彩る景観をつくる	中心市街地では、本市の顔としてふさわしい都市景観を創出するため、彫刻の効果的設置や景観計画区域における良好な景観を創出する。
方針3 地域資源を守り育てる	身近な公園・緑地、寺社周辺の樹林地等の保全・活用を図り、緑豊かな都市空間を形成する。

※全体構想の都市づくりの方針（P.31）に対応する中央部地域の方針を示しています。

■まちづくりの方針（中央部地域）

○拠点と公共交通軸のイメージ図

【地域コミュニティ核（中央部地域）の方針】
 ・藤山、小羽山、上宇部、琴芝、恩田、常盤ふれあいセンター周辺は、都市拠点や地域拠点との近接性や最寄品を購入できる商業施設や医療施設等が立地している特性を活かしながら、日常生活に必要な身近な機能を可能な限り維持する



凡例	
	商業・業務地ゾーン
	住宅地ゾーン
	産業・研究施設地ゾーン
	田園集落地ゾーン
	自然環境ゾーン
	市街地周辺緑地ゾーン
	広域連携軸
	都市幹線軸
	地域間連携軸
	主要幹線軸（バス軸）
	地域内幹線軸・地域内支線（バス軸）
	J R軸
	都市拠点
	地域拠点
	地域コミュニティ核

【地域拠点（岬）の方針】
 ・大型商業施設、医療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設等の都市機能を集約する

○まちづくりの方針図

【都市拠点の方針】
 ・本市の中心市街地としてふさわしい都市機能を集約するとともに、重点整備地区の整備を先導的に進めることで、にぎわい創出に取り組む
 ・行政機関、商業施設、医療施設、高齢者福祉施設、子育て支援施設、文化施設等の都市機能を集約する
 〈重点整備地区の整備〉
 ・宇部新川駅周辺地区や市役所周辺地区、中央町三丁目地区の整備を推進する

建築・開発行為の規制・誘導等により、市街地外の良好な自然環境の保全を図る

風致地区等の活用により、市街地内の良好な自然環境の保全を図る

（都）宇部湾岸線の早期事業化を促進する

河川改修を促進し、水とみどりの憩い空間を創出する

景観計画区域における良好な景観を創出する

大型船舶による効率的な輸送の実現に向けた整備を促進する

高潮堤防の整備を促進する

海辺のレクリエーションの場として、うるおいのある水辺空間の整備を促進する

漁港周辺を交流の場として活用するとともに、適切な維持管理を推進する

空港を中心とした付加価値の高い流通機能の導入を進めるとともに、交通結節点としての機能を強化する

市民の憩い・交流の場として活用するとともに、周辺樹林地を保全する

「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的モデル公園として整備を推進する

風致地区等の活用により、市街地内の良好な自然環境の保全を図る

（都）柳ヶ瀬丸河内線の早期事業化を促進する

市民ニーズに対応した機能の充実を図る

凡例			
	広域連携道路		中心商業・業務地
	広域連携道路未整備区間		近隣商業地
	都市幹線道路		住宅・サービス施設共存地
	都市幹線道路未整備区間		専用住宅地
	地域間連携道路		産業・研究施設地
	地域間連携道路未整備区間		農地
	J R		山地・丘陵地
	地域界		市街地（用途地域）



【ときわ公園】

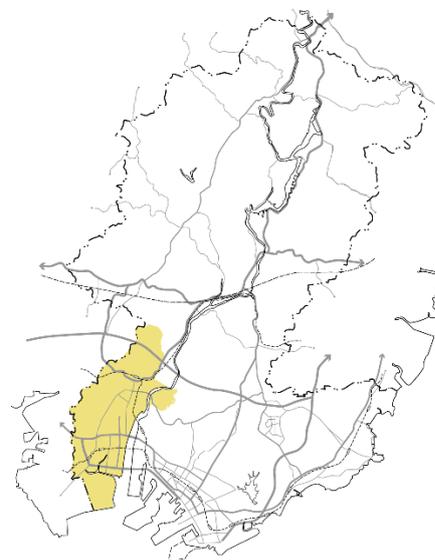


【市庁舎】

【地域内共通の方針】
 ・狭い道路が多い地域では、建物の更新に合わせたセットバックによる道路空間の確保等により、防災性・利便性の向上を図る
 ・老朽化した下水道施設の改築更新を推進する
 ・専用住宅地等では、居住を誘導する区域の検討を行う
 ・野外彫刻の効果的な設置や彫刻ボランティアの育成を推進する

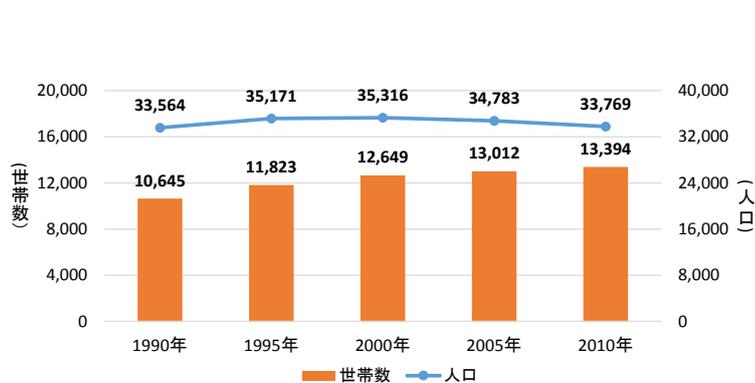
5.4 西部地域

5.4.1 地域の特性とまちづくりの課題



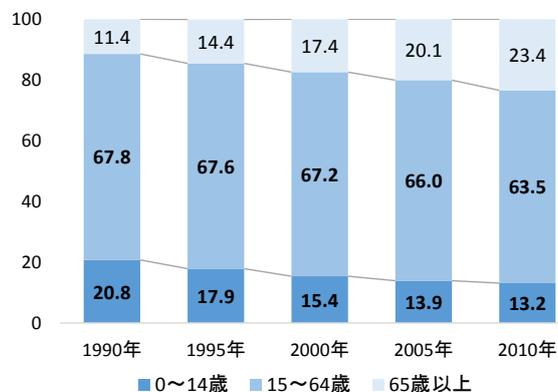
■地域の特性

- ◇人口は、1990年から2010年の20年の間はほぼ横ばいで推移しているものの、2000年以降は減少に転じています。世帯数は、1990年から2010年の20年間に約26%増加しています。また高齢化率は1990年の約11%から2010年には約23%に増加しています。
- ◇宇部駅周辺には、商業施設、医療施設、高齢者福祉施設、教育施設等が立地しています。
- ◇黒石地区には、大型商業施設、医療施設、高齢者福祉施設等が立地しています。
- ◇地域北側にJR山陽本線、宇部線の宇部駅があり、地域南側にJR小野田線の妻崎駅や長門長沢駅があります。
- ◇新田開発された農業用地に市街地が形成されたため、現在も地域内に多くの農地が残っており、広範囲にわたって標高が低い平地となっています。
- ◇国道190号沿道等にサービス施設が立地しています。



出典：国勢調査

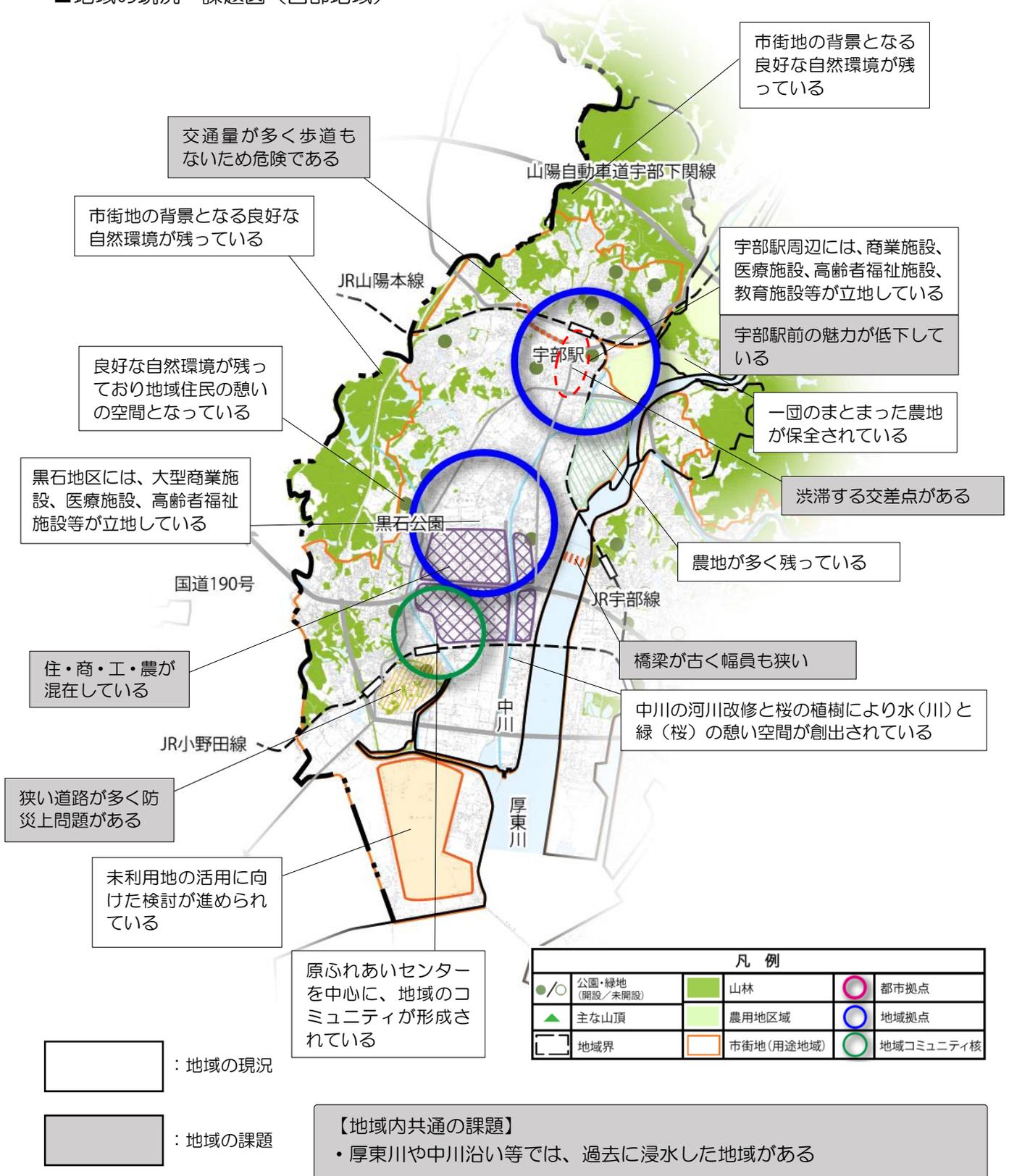
図 人口・世帯数の推移(西部地域)



出典：国勢調査

図 年齢階層別人口割合(西部地域)

■地域の現況・課題図（西部地域）



5.4.2 まちづくりの方針

■特色あるまちづくりに向けて（主なまちづくりの方針）

●「都市空間の再編で活力を高める都市づくり」の方針

方針1

都市・地域拠点への機能集約を進める

地域拠点（宇部駅周辺・黒石）は、互いの役割分担に配慮しながら、都市拠点を補完し、生活利便性やコミュニティを維持・向上させるための都市機能を集約する。

方針3

拠点や地域コミュニティ核をつなぐネットワークを強化する

宇部駅の交通結節点機能を強化し、拠点や地域コミュニティ核間の移動を支える公共交通ネットワークの構築を図る。

●「安心できる暮らしをみんなで築く都市づくり」の方針

方針1

コミュニティが豊かな暮らしの場をつくる

水と緑を活かした、うるおいのある住環境の形成を図りつつ、緩やかに地域拠点(宇部駅周辺、黒石)やその周辺、県道宇部船木線等の公共交通軸周辺等に居住を誘導し、利便性が維持された住環境を創出する。

方針2

歩いて暮らせるまちをつくる

地域拠点や公共交通軸周辺を中心に、誰もが安心・安全に暮らせるように快適な歩行者・自転車空間を確保する。

方針3

災害に強いまちをつくる

過去に浸水被害を受けた地域があることから、厚東川や中川の河川改修等を促進し、防災機能の向上を図る。

●「宇部らしい環境を交流につなげる都市づくり」の方針

方針3

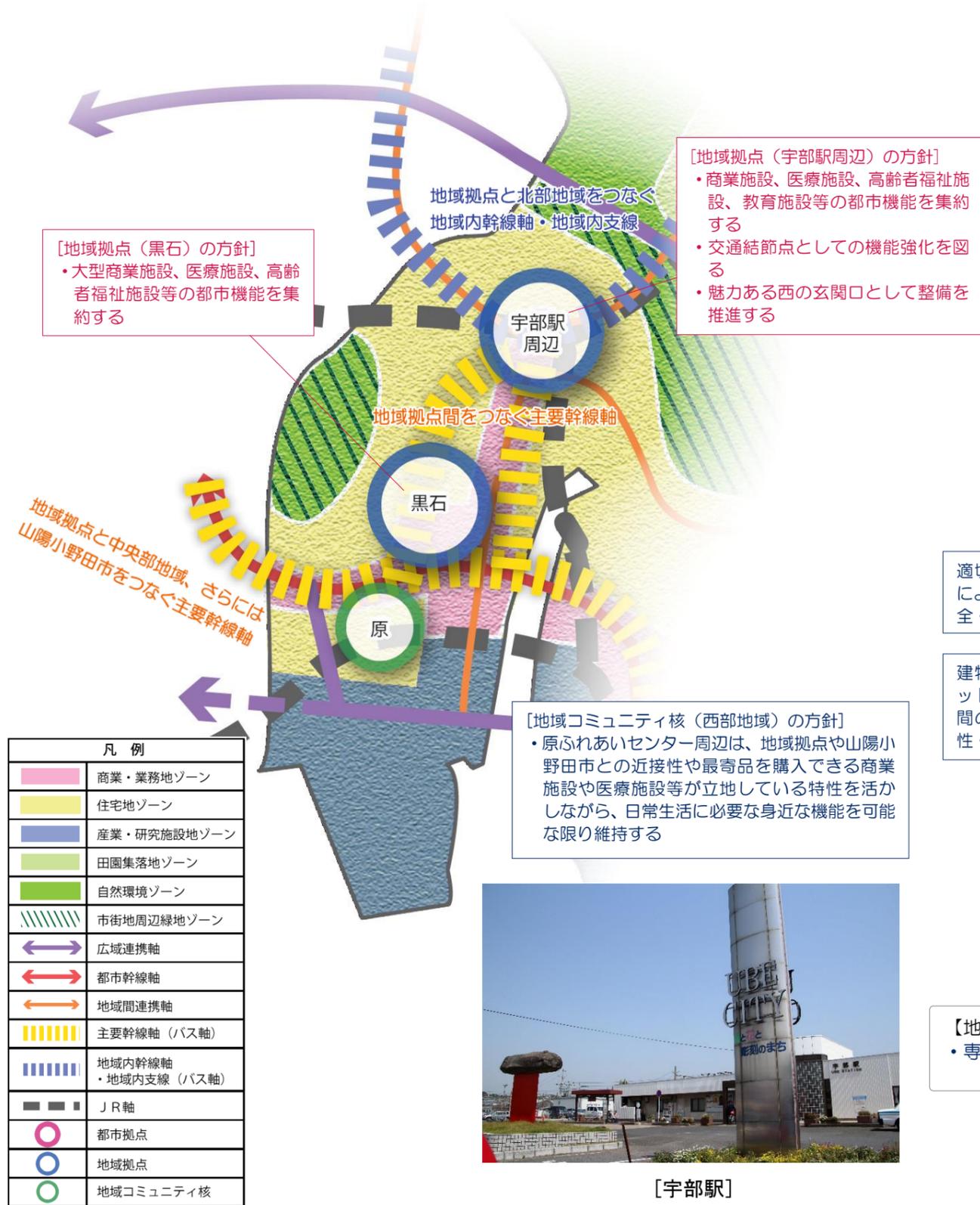
地域資源を守り育てる

水辺空間の活用や緑地の保全等により、憩い・やすらぎ空間の創出を図る。

※全体構想の都市づくりの方針（P.31）に対応する西部地域の方針を示しています。

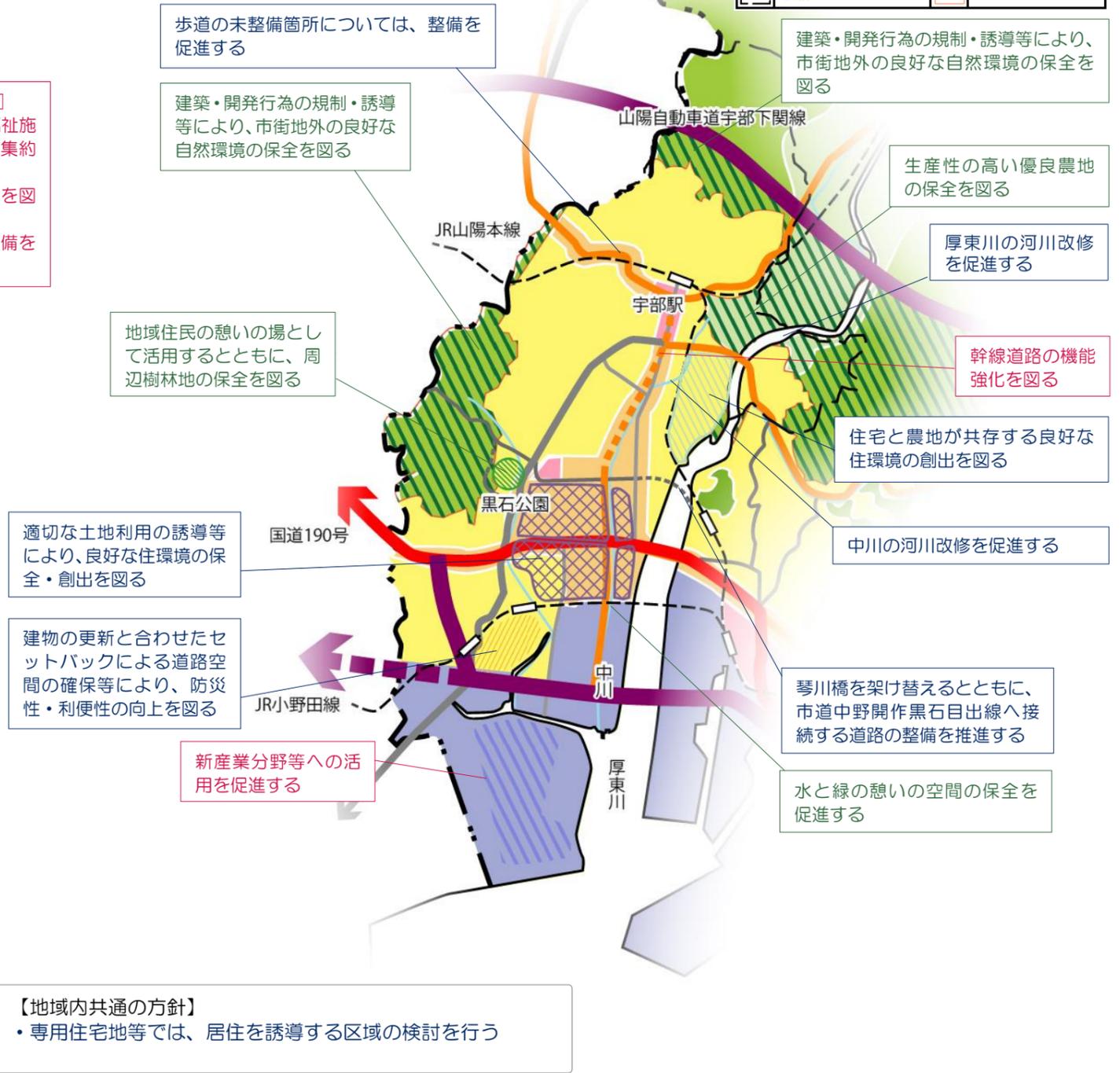
■まちづくりの方針（西部地域）

○拠点と公共交通軸のイメージ図



【宇部駅】

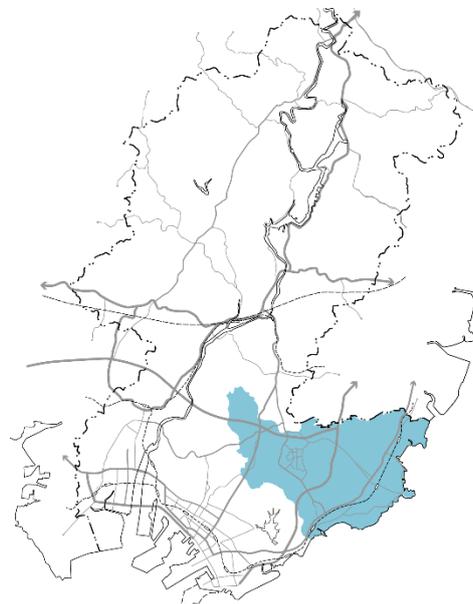
○まちづくりの方針図



凡例			
	広域連携道路		中心商業・業務地
	広域連携道路未整備区間		近隣商業地
	都市幹線道路		住宅・サービス施設共存地
	都市幹線道路未整備区間		専用住宅地
	地域間連携道路		産業・研究施設地
	地域間連携道路未整備区間		農地
	JR		山地・丘陵地
	地域界		市街地(用途地域)

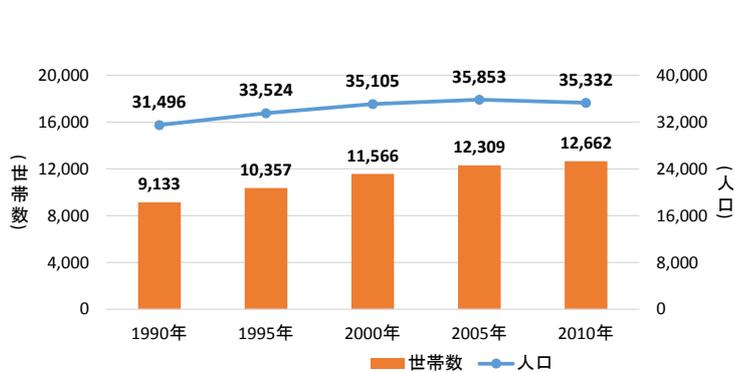
5.5 東部地域

5.5.1 地域の特性とまちづくりの課題



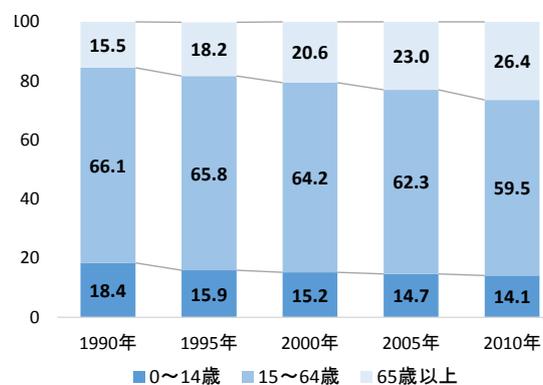
■地域の特性

- ◇人口は、1990年から2010年の20年の間に約12%増加しているものの、2005年以降は減少に転じています。世帯数は、1990年から2010年の20年の間に約39%増加しています。また高齢化率は1990年の約16%から2010年には約26%に増加しています。
- ◇西岐波地区には、商業施設、医療施設、子育て支援施設等が立地しています。
- ◇地域東側にJR宇部線の岐波駅、丸尾駅、床波駅があります。
- ◇海岸部は隆起しており、緩やかな起伏のある台地が広がっています。台地上の多くが畑作に利用されており、農地と住宅が共存しています。
- ◇国道190号沿道にサービス施設が立地しています。
- ◇海岸部に丸尾や床波の漁港、丘陵地に宇部新都市等の産業団地が立地しています。



出典：国勢調査

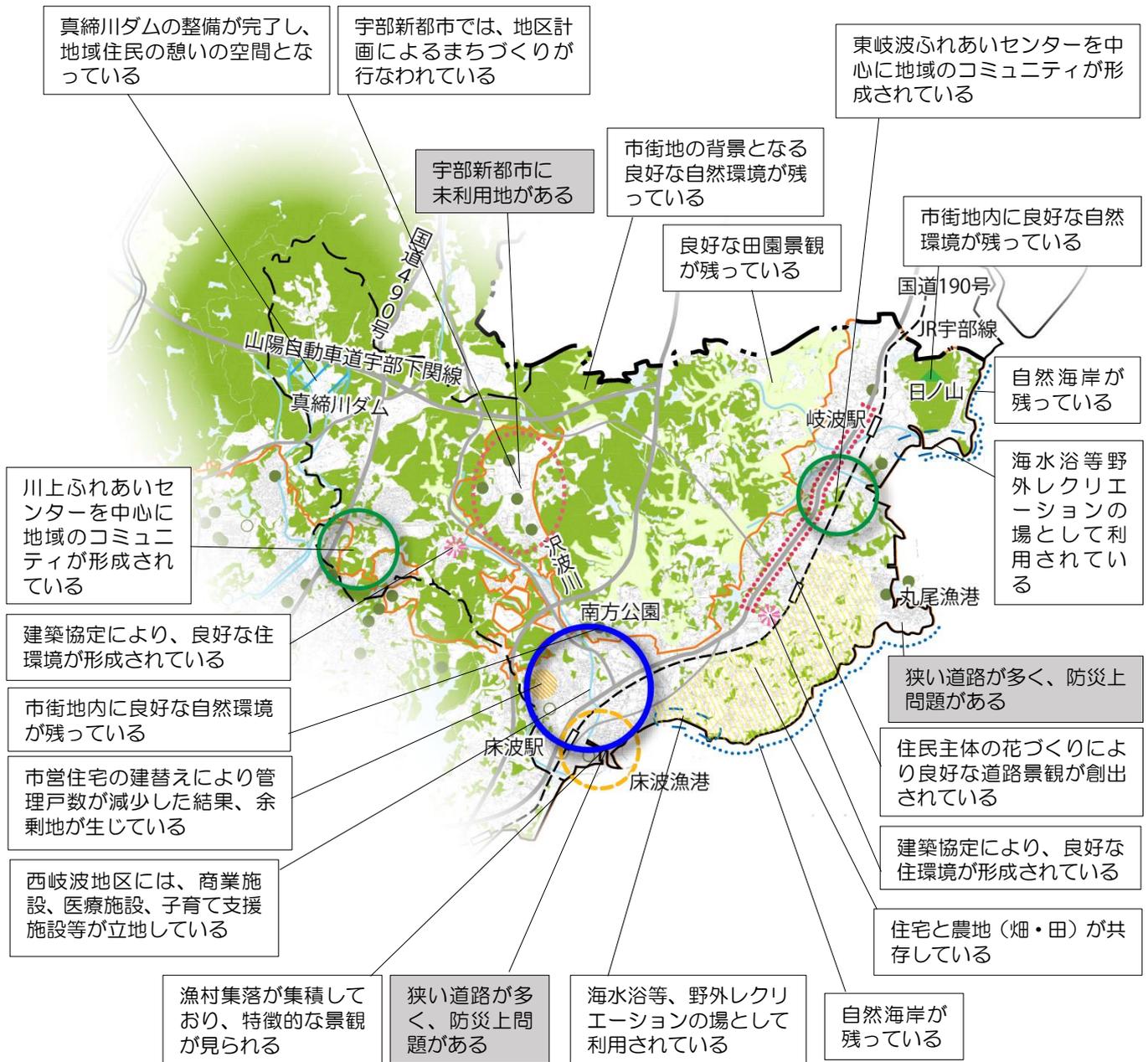
図 人口・世帯数の推移(東部地域)



出典：国勢調査

図 年齢階層別人口割合(東部地域)

■地域の現況・課題図（東部地域）



□ : 地域の現況

■ : 地域の課題

凡 例		
●/○	公園・緑地 (開設/未開設)	都市拠点
▲	主な山頂	地域拠点
□	地域界	地域コミュニティ核
■	山林	
■	農用地区域	
■	市街地(用途地域)	

【地域内共通の課題】

- ・床波漁港周辺等では、過去に高潮被害を受けた地域がある

5.5.2 まちづくりの方針

■特色あるまちづくりに向けて（主なまちづくりの方針）

●「都市空間の再編で活力を高める都市づくり」の方針

方針1 都市・地域拠点への機能集約を進める	地域拠点（西岐波）は、都市拠点を補完するとともに、宇部新都市、宇部臨空頭脳パークとの近接性を活かしながら、生活利便性やコミュニティを維持・向上させるための都市機能を集約する。
方針2 競争力の高い産業を育てる	山陽自動車道や空港へのアクセス性の良さを活かし、宇部新都市、宇部臨空頭脳パークに企業誘致を進めるとともに、農業漁業等の地域産業の活性化を図る。

●「安心できる暮らしをみんなで築く都市づくり」の方針

方針1 コミュニティが豊かな暮らしの場をつくる	緩やかな起伏や農地、海への眺望等を活かした、ゆとりある住環境の形成を図りつつ、緩やかに地域拠点(西岐波) やその周辺、国道 190 号、JR宇部線等の公共交通軸周辺等に居住を誘導し、利便性が維持された住環境を創出する。
方針2 歩いて暮らせるまちをつくる	地域拠点や公共交通軸周辺を中心に、誰もが安心・安全に暮らせるように快適な歩行者・自転車空間を確保する。
方針3 災害に強いまちをつくる	過去に高潮被害を受けた地域があることから、沿岸部の高潮災害に備え、高潮堤防や排水機場の整備等を進め、防災機能の向上を図る。

●「宇部らしい環境を交流につなげる都市づくり」の方針

方針3 地域資源を守り育てる	丘陵地の山並みや田園環境等、良好な自然環境の保全を図るとともに、地域を特色付ける海や山等を市民の憩い・交流の場として活用する。
-------------------	---

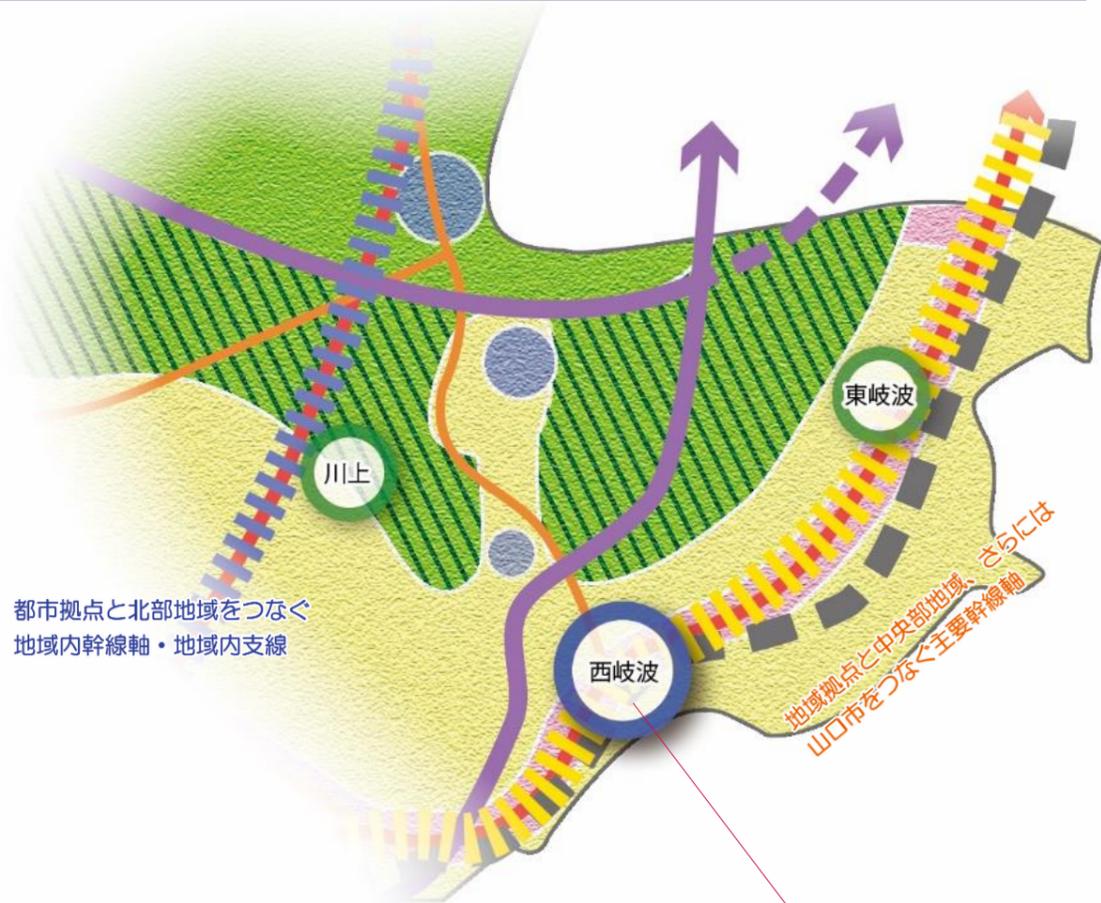
※全体構想の都市づくりの方針（P.31）に対応する東部地域の方針を示しています。

■まちづくりの方針（東部地域）

○拠点と公共交通軸のイメージ図

[地域コミュニティ核（東部地域）の方針]

- 川上、東岐波ふれあいセンター周辺は、地域拠点や山口市との近接性や最寄品を購入できる商業施設や医療施設等が立地している特性を活かしながら、日常生活に必要な身近な機能を可能な限り維持する



都市拠点と北部地域をつなぐ
地域内幹線軸・地域内支線

地域拠点と中央部地域、さらには
山口市をつなぐ主要幹線軸

[地域拠点（西岐波）の方針]
・商業施設、医療施設、子育て支援施設等の都市機能を集約する

凡例	
	商業・業務地ゾーン
	住宅地ゾーン
	産業・研究施設地ゾーン
	田園集落地ゾーン
	自然環境ゾーン
	市街地周辺緑地ゾーン
	広域連携軸
	都市幹線軸
	地域間連携軸
	主要幹線軸（バス軸）
	地域内幹線軸・地域内支線（バス軸）
	JR軸
	都市拠点
	地域拠点
	地域コミュニティ核



[国道190号沿道の花壇]

○まちづくりの方針図



建築協定の活用により、
良好な住環境を形成する

地域住民の憩いの場として
活用するとともに、周辺
樹林地の保全を図る

市営住宅建替えによる余
剰地の有効活用を図る

・漁村集落景観に配慮しながら、建物の更新に合わせたセットバックによる道路空間の確保等により、防災性・利便性の向上を図る
・高潮堤防や排水機場等の整備を進める

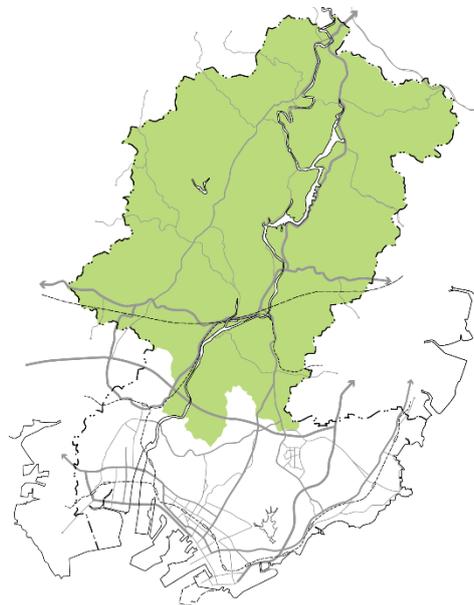
憩い空間やレクリエーションの場として海水浴場の整備を推進する

【地域内共通の方針】
・専用住宅地等では、居住を誘導する区域の検討を行う

凡例			
	広域連携道路		中心商業・業務地
	広域連携道路未整備区間		近隣商業地
	都市幹線道路		住宅・サービス施設共存地
	都市幹線道路未整備区間		専用住宅地
	地域間連携道路		産業・研究施設地
	地域間連携道路未整備区間		農地
	JR		山地・丘陵地
	地域界		市街地（用途地域）

5.6 北部地域

5.6.1 地域の特性とまちづくりの課題



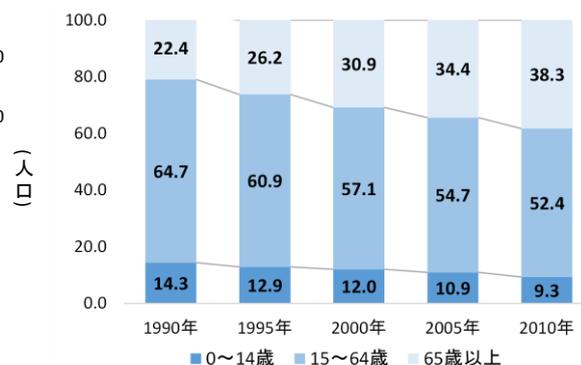
■地域の特性

- ◇人口は、1990年から2010年の20年の間に約17%減少しており、世帯数はほぼ横ばいで推移しています。高齢化率は、1990年の約22%から2010年には約38%に増加しており、4つの地域の中で最も高くなっています。
- ◇小野地区には環境教育と交流の拠点施設である「アクトビレッジおの」があります。
- ◇二俣瀬地区には、地域住民の手により整備された「里山ビオトープ」があります。
- ◇厚東地区には、寺社等の文化財が点在しています。
- ◇船木地区には、地域行政の中心である「北部総合支所」、学習・文化・創造活動の拠点である「学びの森くすのき」や地域住民の憩いと交流の場である「船木中央公園」があります。
- ◇万倉地区には、農林業振興と地域の活性化、都市と農村の交流等を推進する拠点施設である「楠こもれびの郷」があります。
- ◇吉部地区には、参道や親水公園等の街なみ環境が整備されています。
- ◇地域南側にJR山陽本線の厚東駅があります。
- ◇土地利用の大部分が山林や農地であり、農林業が主要産業となっています。地域には、荒滝山や霜降山、小野湖等、優れた自然環境が残されています。



出典：国勢調査

図 人口・世帯数の推移(北部地域)



出典：国勢調査

図 年齢階層別人口割合(北部地域)

■地域の現況・課題図（北部地域）



凡 例		
●/○	公園・緑地 (開設/未開設)	山林
▲	主な山頂	農用地区域
□	地域界	市街地(用途地域)
●	都市拠点	地域コミュニティ核
○	地域拠点	

□ : 地域の現況

■ : 地域の課題

【地域内共通の現況】

- ・ 農業振興地域が大部分を占める

【地域内共通の課題】

- ・ 医療施設や商業施設等の都市機能が少ない
- ・ 都市拠点や地域拠点等との距離が遠い
- ・ 交通空白地域が多い
- ・ 厚東川や帆川沿いでは過去に浸水した地域がある
- ・ 農林業従事者の減少や高齢化が進み、耕作放棄地が増えている

5.6.2 まちづくりの方針

■特色あるまちづくりに向けて（主なまちづくりの方針）

●「都市空間の再編で活力を高める都市づくり」の方針

<p>方針2 競争力の高い産業を育てる</p>	<p>農林産物のブランド化や、6次産業化・農商工連携の一体的な取り組みにより、農林業を中心とした産業の活性化を図る。 北部地域固有の資源・文化等を連携・活用し、都市と農村の交流による地域の活性化を図る。</p>
<p>方針3 拠点や地域コミュニティ核をつなぐネットワークを強化する</p>	<p>都市拠点、地域拠点とのアクセス性の向上を図るとともに、交通空白地域の移動手段を確保するため、デマンドバス等のコミュニティ交通の充実を図る。</p>

●「安心できる暮らしをみんなで築く都市づくり」の方針

<p>方針1 コミュニティが豊かな暮らしの場をつくる</p>	<p>自然豊かな環境や空間的なゆとりを活かし、良好な住環境の形成を図りつつ、地域コミュニティ核を中心に地域資源や地域特性を活かした魅力ある中山間地域づくりを進めるため、「小さな拠点づくり」を促進する。</p>
------------------------------------	--

●「宇部らしい環境を交流につなげる都市づくり」の方針

<p>方針3 地域資源を守り育てる</p>	<p>次世代に継承すべき優れた自然環境の保全を図るとともに、自然の持つ機能や効用を十分に活用できるよう、自然環境に配慮しながら、人と自然がふれあえる空間の創出・活用を図る。</p>
---------------------------	--

※全体構想の都市づくりの方針（P.31）に対応する北部地域の方針を示しています。

■まちづくりの方針（北部地域）

○拠点と公共交通軸のイメージ図

凡例	
	商業・業務地ゾーン
	住宅地ゾーン
	産業・研究施設地ゾーン
	田園集落地ゾーン
	自然環境ゾーン
	市街地周辺緑地ゾーン
	広域連携軸
	都市幹線軸
	地域間連携軸
	主要幹線軸（バス軸）
	地域内幹線軸・地域内支線（バス軸）
	J R軸
	都市拠点
	地域拠点
	地域コミュニティ核



【地域コミュニティ核（北部地域）の方針】

- 船木、万倉、吉部、小野、二俣瀬、厚東ふれあいセンター周辺は、地域住民が生活に必要なサービス機能を継続的に利用するとともに、地域の「困りごと」を解決するため、新たな組織を立ち上げる等住民が主体的に取り組むことで日常生活に必要な機能を維持する
- 船木には北部総合支所が立地しており、地域行政の中心的な役割を維持する



【茶畑】

【地域内共通の方針】

- 最適なコミュニティ交通の充実を図る
- アクティビレッジおの、里山ピオトープ、学びの森くすのき、楠こもれびの郷等の拠点施設や、荒滝山、小野湖、今富ダム等の自然、厚東の文化財等を有効的に活用し、都市部との交流を促進する
- 農業振興地域では、整備計画等に従って営農の場として保全・整備を図る

○まちづくりの方針図



凡例			
	広域連携道路		中心商業・業務地
	広域連携道路未整備区間		近隣商業地
	都市幹線道路		住宅・サービス施設共存地
	都市幹線道路未整備区間		専用住宅地
	地域間連携道路		産業・研究施設地
	地域間連携道路未整備区間		農地
	J R		山地・丘陵地
	地域界		市街地（用途地域）